

六葉会 会報

Vol.23



関東学院六浦中学校・高等学校同窓会

<http://www.rokuyoukai.com>

表紙を飾る 版画家 大庭 明子さん(23回生)



AKIKO OBA

23号より表紙を飾っていただくのは版画家 大庭明子さん。

カラフルでバワフルな作品で幅広く活躍中。

みなさんの応援、よろしくお願ひ致します。

●大庭さんのホームページはこちら。

<http://www.obaakiko.com>

「大庭明子の電子空間」

略 歴

- 1956 神奈川県逗子市に生まれる
- 1975 関東学院六浦高校卒業(23回生)
- 1978 ~ '97 神奈川県版画アンテナ展
- 1979 東京造形大学絵画科版画研究室卒業(教授:馬場精男)
- 1980 ~ '89 神奈川県美術展(受賞 '80, '82, '83, '84, '86)
- 1981 ~ '88 日本版画協会展(受賞 '87)
- 1981 ~ 個展(ほぼ毎年各地にて)('96, '97, '99を除く毎年)
- 1982 版画〈期待の新人〉展(りゅう画廊)
- 1984 イビザグラフィック展(スペイン)
- 1985 文化庁芸術家国内研修員(指導:磯見輝夫)
平和への青年芸術家展(ポーランド)
- 1987·'91 Small Graphic Forms, Lodz Poland(ポーランド)
- 1987 第21回現代美術選抜展(文化庁)
- 1989 Petit Format de Papier = Japon 1989(ベルギー、フランス)
- 1992 横浜の作家たち(横浜、ルーマニア:コンスタンツァ、ブカレスト)
- 1994 ビトラ国際版画トリエンナーレ(マケドニア:ビトラ)
- 2008 絵本「ことばのくにのマジックショー」
(アリス館、ことば:中川ひろたか、手品:大友剛)の絵を描く
- 2009 絵本「にくまん どっち?」(アリス館、刈田澄子:文)の絵を描く

C O N T E N T S

大庭明子さんプロフィール	表2	全国和算研究大会報告に参加して	10
ご挨拶	1	頑張っている六葉会会員ご紹介	12
校長挨拶	2	Check A Toilet	14
六浦祭報告	4	親睦ゴルフ大会報告・告知	16
ホームカミングディ報告	6	59回生学年幹事・会報デジタル化・	
同窓会レポート	8	六浦祭に行こう	17
坂井先生追悼演奏会のお知らせ	9		

建学の精神

六葉会副会長 島根 正隆 (9回生)

同窓会の皆様、いかががお過ごしですか。

創立125周年記念事業でも多くの方々のご協力により無事終了しました。六浦中学校・高等学校の二号館の建て替えも記念事業の一



つでありました。六葉会として母校の発展向上に積極的に協力と

言う役割を果たしたかと思えます。

関東学院がさらなる飛躍のためには決して忘れてはならないことがあります。それは学院の建学の精神であります。学院長坂田祐先生は以下のように話しています。

『わが学院は創立以来キリスト教の教えを以つて建学の精神とし幼稚園から大学に至るまでこれをつつて貫いているのであります。若し今後施設が充実発展外観が整うに従つて建学の精神が衰え薄弱になり無視されるようになりましたら学院の存在は無意義とな

りこの建学の精神を具体的に表現するための校訓「人になれ奉仕せよ」を強調してきたのであります。』(昭和32年創立記念式式辞の要旨)

今一度この精神を再確認し次へつなげてまいりたいと思います。

震災お見舞い申し上げます

この度の東北地方太平洋沖地震により被災された方々の中には、六葉会会員の皆様のご親戚、ご友人など多数いらっしゃるのではないのでしょうか。被害にあわれた皆様には謹んでお見舞い申し上げます。そして一日も早く平穏な日々が訪れますよう心よりお祈り申し上げます。

2011年3月

関東学院 六葉会
会長 永野肇

「人間としての中身」を

求めて

関東学院六浦中学校・高等学校 校長

河合 輝一郎



新年度を迎え、六葉会の皆様にはご健勝のことと拝察いたします。今年も私も関東学院六浦中高の発展のために、ご協力を賜りますようお願いいたします。

一月に実施された大学入試センター試験の国語の問題に、鷺田清の「身ぶりの消失」の一部が取り上げられていました。高齢者用のグループホームの話ですが、その建物は今風の「バリアフリー」からはほど遠い古い木造建

築の民家で、玄関の前には石段があり、玄関の戸を引くと玄関間があつて、「よいしょ」と言つて上がらなければならぬ。襖を開けて初めて皆が居る居間によく入ることができたのですが、お菓子を前におしゃべりに興じている老人たちの輪の中になかなか入ることができない。しかし、立つているわけにもいかなないので座ると座布団を差し出す手がすつと伸びてきて、そのことがきっかけとなつて

自然に話の輪に入ることができたというのです。鷺田はそれを「和室の居間」という空間が、つまりそこには、立つたままであることの不自然さの故に座らざるを得なくなり、そのことで人と人の自然のつながりが生まれていくと指摘しているのです。バリアフリーに作られた空間では、さまざまなるまゝをまとめあげた「暮らし」というものが人体から脱落して、本来あるべき人間としての「中身」が欠落してしま

うことになると思うのです。

これを読んで、はたして試験に臨んでいる高校生がこれを理解できるのかなと思いましたが、たぶん皆さん方は同感できるのではないかと思えます。立派な設備が整っている学校の中で教育が進められる事はもちろんそうあつてほしいと思います。しかし、そこに人としての温もり、思いやりが欠けていればただの建物でしかないのです。「人間としての中身」が欠落した学校の中では本当の意味での人になることはできないのです。

六浦中高に来て二年、今後も、この学校に集う一人ひとりの子供たちに、人としての基本的な営み、人としてどうあるべきなのかを常に問いかけていきたいと思っています。皆様の今までの以上の御支援とご理解、ご協力をお願いいたします。



関東学院創立125周年記念事業募金 ご協力ありがとうございました。

六葉会会長 永野肇（8回生）

2007年9月に始まった関東学院創立125周年記念事業募金も本年3月末日を持ちまして終了いたしました。

まず、ご協力いただきました多くの六葉会会員の皆様に心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。

六葉会では中村年伸委員長（12回生）を中心に積極的に募金事業を展開し、六葉会発足以来最高金額の募金となりました。その間、六葉会会員の皆さんにもおなじみの理科館（2号館）も記念事業の一環として建て替えられ2008年12月10日に献堂式が行なわれました。

この事業に対して多くの方が力を合わせて母校の発展を支えることが出来たことが何より一番の実績だと思っています。今後も母校と六葉会に対してご協力下さいますようお願いして、お礼のご挨拶といたします。ありがとうございました。



六浦祭



2010年11月2日と3日の二日間にわたり六浦祭が開催されました。六浦祭に参加した方々に今年度の六浦祭をレポートしていただきました。このレポートから少しでも六浦祭の熱気を感じ取っていただきたいと思えます。

「CHANGE1136」

今年度の六浦祭は、「CHANGE1136」(1136は在校生総人数)というテーマで、11月2日(火)、3日(水・祝)に実施されました。六浦祭の主な内容は、生徒の研究発表や文化部の活動報告、展示や発表会六穂会(P.T.A)によるバザー等や露店、また礼拝堂では吹奏楽部と演劇部の発表を始め、恒例の「関六エンタ」も好評でした。そして、六葉会のホームカミングデーも開



催されました。校内の中庭では、模擬店やイベントステージが大変盛り上がり、今年は乗用ミニ鉄道が校内を走りました。

入場者数は4587人(昨年約2100人)と大幅に増え、たくさんの方々に来場していただきました。

生徒会としても六浦祭をより盛り上げるために、毎年改良や新しいアイデアを加えております。在校生をはじめ、たくさんの方々にご協力していただき、今年度の六浦祭を実施することができました。

次年度は、より楽しんでいただくために様々な企画を考えておりますので、是非、ご来場ください。

(生徒活動部 教諭 高石 智)

六浦祭の印象

私は11月2日(火)六葉会の部屋の受付をするために六浦祭に行った。六葉会の部屋では訪問者名簿を置いていたが、記帳してもらえず約10名位は記入してもらえなかった。

途中4階の鉄道クラブに見学に行った。生徒が作ったジオラマが良く出ていた。製作するにあたった生徒たちの努力がうかがえて良かった。又、中庭の5インチレールの鉄道も良かった。今年が1年目のデモンスト



レーションであったが貴重な第一歩であったと思います。毎年少しずつ進化して、長い時をかけて将来は蒸気で走るような機関車を作つて欲しいと思つた。レールも延長して周回できるようなコースを作つたら楽しいと思つた。

昼食には美味しい焼きうどんを食べました。先生方ご協力ありがとうございました。
(8回生 加茂德行)

▼卒業アルバム

六葉会の部屋には歴代の卒業アルバム58冊が揃つており、ズラリと教室の四囲に展示されておりました。あるお客様の様子を見ていますと、何冊かのアルバムを丹念に見ていらしてお目当てのアルバムが見つからない様子。まだお若い方ですそのアルバムの年齢ではないと思つて見えています、残念そうに元に戻されたのでお訪ねしてみると卒業年度が分からないとのこと。念のためお名前を伺うと偶然にも私の同級生のM君！その方はご子息のお嫁さんとのこと、3年3組のページを開いてお見せするとたいへん嬉しそうにお子さんと一緒にご覧になっていました。また、あるアルバ

ムでは昭和25、6年頃のどこも火事で焼失していない関東学院六浦のキャンパス全体の航空写真を見つけ、丁度来室されておられた白根先生と感慨深く拝見しました。昭和30年、31年の校舎の写真を見比べるとストーブの煙突の有無で、この頃初めて教室にだるまストーブが入つた事が懐かしく思い出されました。

(6回生 加藤武)

▼ポスター展示

平成二十二年度の六浦祭では、例年の六葉会の部屋に加えて、第六回ホームカミングデーも開催されました。ホームカミングデーでは、毎回該当学年の卒業アルバムから選んだ写真を、ポスター大に引き伸ばし会場に貼つています。過去のホームカミングデーで使った写真ポスターを六葉会の部屋にも活用しよう、今回はじめての試みとして六葉会の部屋の内外に二回生から二十八回生の卒業アルバムからの写真ポスターを貼ってみました。六浦祭前日準備の十一月一日にポスターを貼り始めた直後から在校生や先生方の話題的になり、六浦祭の二日間にも写真ポスターはとてもご好



評をいただいたようです。一枚のポスターの前に、六回生、十九回生、二十六回生、三十二回生と世代の違う卒業生が並び、ポスターを指差しながら楽しくそうに語り合う光景は、まさに関東学院六浦の和気藹々とした雰囲気そのままでした。来年の六浦祭でも是非続けてゆきたい写真ポスターの企画でした。
(32回生 横地康子)

好天にも恵まれた今年度の六浦祭ですが、なんとと言っても生徒会の諸君の活躍もあつての六浦祭だと強く感じました。今年度も昨年同様11月2日～3日の両日に予定されています。六葉会会員の皆様、是非この機会に母校にお出かけ下さい！



第6回 ホームカミングデー



六浦祭開催中の11月3日、第6回ホームカミングデーが開催されました。今回のホームカミングデーは生徒たちが学校に来ている日に行なわれる初めての試みでした。模擬店をやっている生徒たちも「六葉会の皆さん、お帰りなさい」と張り紙をして、六浦祭全体で六葉会の会員をお迎えして下さいました。

準備

10月野澤幹事長から「通のメール」HCD手伝つてくれないか」と、六葉会にはここ十数年出席しておらず、こんな私でも役に立てるなら」と都合つけて参加しま〜す」と返事したものの、知っている方もいないしどうしようかなと当日まで不安な気持ち。

最近車をを使う機会が多い中、金沢八景駅から学生時代のように歩いて向

かうと、正門を入ると新校舎が建ち自分達が学んでいた校舎は新しく環境のよい設備が整ったすばらしい教室に。六葉会会場へ着き諸先輩方と会い直ちに打ち合わせ、HCD会場の準備担当になったのだが何かわくわくした気持ち&成功してほしい気持ち、式典開始時間が迫ってくる中会場と六葉会会場の往復と汗だく。

HCDでは懐かしい先生方、後輩にも会え準備では久しぶりに気持ちのいい汗もかき、諸先輩方と仕事が出来久々にいい一日を過ごすことができました。

(28回生 近田裕信)



式典

6回目のホームカミングデーは六浦祭の期間中の開催でしたが、式典は本校礼拝堂をお借りして、在校生のイベントである「関六エント」と「吹奏楽部の演奏」の間に、午前11時より式典をもつことができました。

恩師を含め、およそ80名の方にお集まりいただき、讚美歌312番を讚美し鳴坂明人宗教主任からのメッセージをいただきました。式辞を永野肇六葉会会長、ご挨拶を2010年4月より校長に就任された河合輝二郎校長より賜りましたが、30分ほどの短い時間ではありましたが、懐かしく厳かな礼拝の時間をすこせました。

私は社会に出てから久しぶりの礼拝の空気に接して、自分が生徒でいた頃の感覚を思い出し、同時に先輩方が生徒だった頃の面影もそこに見た気がしました。短くも



貴重な式典だったと思います。

(49回生 門脇美有紀)

恩師の皆さんとお会いして

HCDが六浦祭とコラボということで18期の仲間10人程を掛けたもの、当日集まったのは4人。4年前のHCDの時に訪れて以来の久しぶりの母校。そこで久しぶりに再会した恩師の方々。当時の印象、思い出を披露したいと思います。高校2・3年時担任の国近高龍先生。当時の先生のお歳が30代と聞いてびっくり。還暦近い今の私より落ち着かれた雰囲気をお持ちの先生が思い出されます。数学を教えて頂いた佐々木智子先生と長谷川洋三先生。私の数学の成績は二の次として高校1年まで数学が嫌いにならず勉強できたのは両先生の指導の御陰かもしれません。また卒業後も参加したスキー学校で美味しい日本酒を教えて頂いたのも長谷川先生と今回のHCDには参加されていない体育科の金井潤一先生。金井先生を囲んで18期の仲間とこの原稿を書いた翌日に酒席を共にするのは偶然でしょうか。そして聖書白根新治先生。礼拝の時、聖書

の授業での白根先生の説得力のあるお話が懐かしいです。現在は金沢区釜利谷西で教会を主宰されているとのこと。教会に通われている犬塚志朗先生からも日曜礼拝のお誘いを受けました。白根先生のご子息で同期の義輝君とは現在も親交させて頂いています。最後に高校1年時担任の坂井雅澄先生、インターアクトクラブでお世話になった岩橋幸雄校長の計報に接し、感謝の気持ちと共に心から哀悼の意を表します。

(18回生 藤田伸哉)

ティーパーティーのお料理

2010年度度のホームカミングデーのメインと言える「ティーパーティー」。私にとって六葉会の幹事会に関わらせていただいていた初の大きなお仕事でした。当日は六穂会の役員でもある為、動く事ができないので、その分みなさんに喜んでいただけるお食事を提供できればと考えてました。地元で根強い人気のお店「かねひら」で全てお任せしました。パンの耳の付いたサンドイッチは、昔懐かしい感じでした。ケ



ケ

ーキも種類も多くお味もグーでした。勿論、メインのオードブルも盛り沢山でご参加の方々には、満足していただけたかと思えます。予算内できっちりやっていただけ、朝4時から出勤して作っていただけ、配達もしていただき、ゴミも持ち帰っていただけ、大変有り難く思いました。そして、何よりもご参加いただいた皆様、が、楽しそうに笑顔でお料理を食べべていただいていたのでホッとしました。是非とも2011年度も沢山の方々のご参加いただき、満足していただけるように「ティーパーティー」担当係頑張りたいと思います。

(31回生 甲斐深雪)

六葉会会員の皆さんに六浦祭を見ていただきたいと思つて企画した今回のホームカミングデーは、学校や生徒会の皆様のご協力もいただき大盛況となりました。今後も何らかの形で六浦祭に六葉会会員をお招きすること継続していきたいと思つています。



「第14回生同期会」

十四回生同期会 事務局担当

田中 芳夫（14回生）

2010年10月23日(土)、14期卒の5クラス合同の同期会を母校で開催しました。僅かな時間でしたが、中高を見学し、1時から大学で懇親会を行い、参加者は昼間であるためかいつもより少なく、二次会からの参加者を含めると63名の出席でした。

あいさつや写真撮影、近況報告など懇親会は時間も足りなかつたようですが、次の二次会場まで多くの仲間が出席してくれました。(二次会八景駅前アオキ)今回で7回目ですが、還暦を機に前回から4年おきを3年おきで開催しています。同期会はやる気のある幹事がいないと続けるのが難しいので、金子八重子幹事長他には感謝しています。

また、出席いただきました野村先生にも感謝申し上げます。

「つながりのうれしさ」

石川 雄治（49回生）

高校を卒業してちょうど十年。十二月二十八日、四十九回生の同期会でした。二十八歳

の卒業生五十一人が集まりました。会場は、横浜モアーズ九階のレストラン「裏」。安達先生、陽明先生、中田先生、横山先生、八巻先生、秋吉先生も参加してくださいました。

会場の入り口で名札をいただき、レストランの中へ。黒を基調としたおしゃれなレストランでした。開始時間が近づくと、会場はにぎわってきました。「おお、久しぶり。今何してるの。」「元氣そうだね。あれ、何年ぶりだっけ。」卒業式以来、会っていなかった友達もいます。しかし、会話ははずみ、十年ぶりだということがうそのようです。

いよいよ、同期会が始まりました。最初に、六名の先生方がご挨拶してくださいました。心に残るメッセージをいただきました。その後、おいしいお料理をいただきました。その私は今、小学校の教員をしています。中学校三年間担任をしていたいただき、英語を教えてください。いただいた八巻先生に、「今、小学校で英語も担当しているんですよ。」とお話すると、「えっ、雄治が英語を担当してるの。」とびっくりされてしまいました。中学生のとき英語が苦手、何回も小テストをやっていた。八巻先生には大変お世話になりました。おかげで今では英語が大好きです(笑)。壁には、欠席された先生方や友達からのメッセージが張られています。中学高校時代の思い出や近況など、話に花が咲きました。あとという間に三時間が経過しお開き。半

年以上前から様々な準備をしてくれた幹事さんに感謝です。

久しぶりに会った友達との気兼ねない話。十年たつても壁はありません。あの頃と同じように、盛り上がりました。ずっとつながりを持てることは大きな喜びです。

第20回生

あかばつち開催♪

2010年10月2日(土)正午より横浜スカイビル「アントニオ」にて第7回あかばつちが行なわれました。約70名の参加があり大いに盛り上がりました。

従来は5年に一度の開催でしたが、今回から3年に一度の開催となりました。次回は2013年に開催の予定です。

その時にはあかばつちの仲間も還暦を迎えます。皆さん、元気に集まりましょう!



坂井雅澄先生 追悼演奏会のお知らせ

平成23年

9.10 土

13時半開場 14時 開演 神奈川県立音楽堂
混声合唱団「Bella Voce」 & 混声合唱団「鎌倉コール」

昨年1月18日急逝されました坂井雅澄先生の追悼演奏会が9月10日に先生の音楽人生の中で思い出深い神奈川県立音楽堂で開催されます。

演奏するのは、関東学院六浦中高グリークラブで坂井先生からご指導を受けたOGと、関東学院創立125周年記念祝祭合唱団でここ二年間先生のご指導を受けた団員(中高・短大・大学の各卒業生、在校生の保護者とその友人)で構成された混声合唱団「BellaVoce」、坂井先生が三十数年間ご指導された名門合唱団「鎌倉コール」との合同合唱団です。

プログラム

第一部 ソプラノ 歌手横地康子(32回生吉田)さんのソプラノ・リサイタル
モーツァルト モテット「エクスルターテ・イウビラーテ」Kv.165より「アレルヤ」
ドニゼッティ オペラ「アンナ・ボレーナ」より「私の生まれたあのお城」 他

第二部 ① モーツァルト「三位一体の祝日のミサ」Kv.167

② モーツァルト「レクイエム」Kv.626

指揮は ①を横地康子さん ②を坂井先生と親交の深かった芸大の同級生で、鎌倉市合唱連盟理事長の児島百代先生。

チケットは2,000円で県立音楽堂チケットセンターまたは

加藤 (Tel: 090-6343-0166 Email t.incantatio@nifty.com) までお申し込みください。発売開始は6月中旬の予定です。合唱参加希望の方は同じく加藤までご連絡ください。

参加同窓生のお名前：

- ・坂井暁子(4回鈴木)・飯島幸子(5回津田)・田川千代子(5回石塚)・野村寛子(6回及川)
- ・加藤武(6回)・吉川和子(9回)・片山敦子(10回村田)・木下静枝(10回斎藤)
- ・黒柳秀子(11回)・石野由貴子(12回小林)・小池啓子(14回澤野)・丸山典子(19回大野)
- ・奥山郁子(25回辻村)・杉山まり(28回村本)・菅沼晃子(34回菅野)・奥山愛子(38回奥久)

主催：混声合唱団「Bella Voce」

共催：混声合唱団「鎌倉コール」

後援：関東学院六浦中学校・高等学校 関東学院六葉会

第6回 全国和算研究大会

に参加して

高橋浩司(30回生)

一八五三年ペリー一行の黒船が浦賀に着き、江戸城において、開国を迫られ、とうとう三〇〇年に渡り続けてきた鎖国を解くこととなりました。その後、ペリー一行は、日本中を視察して回るのですが、その際、一番驚き、感心したことは、日本全国が実に正確に記録されていたことだったと伝えられています。

実は、その測量の根本にあつた技術が、和算でありました。一六二七年京都の吉田光由によつて記された「塵劫記」が和算家のバイブルとなり江戸時代、関流の流祖関孝和、久留島義太、建部賢弘、渋川春海ら天才和算家や日向延岡藩主内藤政樹ら和算大名と呼ばれる殿様達がこれら和算家を重用し庇護したことに

よつて和算文化が花開きました。そうした環境のもと、日本独自の財政学や測量学、天体学や暦学の体系がつけられたのであります。

昨年、冲方丁著「天地明察」が第31回吉川英治文学新人賞を受賞し、ベストセラーとなりました。内容は、和算を駆使して暦をつつた渋川春海という人物の話であります。正に静かな和算ブームの到来であります。

そのような中、全国和算大会・神奈川県大会が昨夏の8月21日、22日の二日間 に渡り、開催されました。

初日は、藤沢市江の島近くにあるKKR江の島ニュー向洋で、二日目は、鎌倉市材木座海岸近くにある浄土宗大本山

光明寺において開催されました。

和算研究会は、数学学会の下部組織であります。各都道府県に組織をもっておりまして、神奈川県和算研究会の初代会長は、故岩橋幸雄先生でありました。そして現在の会長は、昨年3月ご勇退された加藤芳信先生であります。

そうしたご縁からご相談を頂き、この度の全国和算大会・神奈川県大会のお手伝いをさせて頂くこととなりました。

大会の日程は

初日(KKR江の島ニュー向洋)

一「神奈川県和算」報告

柴原英雄

二「記念講演「大工と和算」

野口泰助

三「数学史文化史としての地面水平型

日時計の算数・数学科教育への応用」

宮本俊光

四「勤者御伽雙紙」の円理

田邊寿美枝

五「法道寺善も計算を誤るか

北原勲

六「関孝和の行列式について

真島秀行

一、算額を解く：寒川神社を参考に

深川英俊

二日目於：光明寺

「和算大名内藤政樹と撰書『絳老餘算』について」加藤芳信

「内藤政樹並びに内藤家墓参以上の各発表が、行われました。」

二日目に加藤先生の報告が行われたのですが、内藤家の系譜や内藤家の墓所が何故光明寺にあるのかと言うことが中心でした。内藤家の墓所は、当初江戸



左から、松尾崇鎌倉市長、加藤芳信先生、筆者

の靈巖寺にあったのですが、竹田信玄の孫に当たる天光院(内藤忠興の妻)が、光明寺に永代供養料「三百石を寄進することで協議が整い、墓石を江戸から鎌倉に移設することになったそうです。内藤家の墓所には、大小百十七基の墓石が建っていますが、現在、鎌倉市の文化財に指定されています。

また、先生は、報告の中で、光明寺の現代史にも触れられ、かつて光明寺を利用して開設していた「鎌倉アカデミア」と言う私立学校についてのご紹介でありました。その学校の卒業生には、いずみたく、鈴木清順、高松英郎、左幸子、前田武彦、宇野重吉、吉野秀雄、高見順ら有名人が多かったです。本論の話では無いのですが、実に興味深い話でありました。

それにしても数学の先生である加藤先生が歴史に詳しいのには、大変驚きました。と同時に和算を学ぶことは、数学・物理・化学を学ぶと同時に日本の歴史を学ぶことになるのだと興味を持ちました。学校教育でも是非、カリキュラムに取り入れて欲しいものです。

最後になりますが、前述の通り、神奈

川県和算研究会の初代会長が、岩楯幸雄先生で、その岩楯先生が、天に召された年に全国大会が、先生がお住まいであった鎌倉の地で行われたことに、深い因縁を覚えるのであります。

岩楯先生は、神奈川県和算研究会設立の際、初代会長として以下のように述べられています。

「日本の数学は、和算という言葉で独特な表現をされている。これは西洋とは違った独特な数学を形作ってきたことを意味している。

和算は、まだまだ多くのことが明らかになつていない科学史研究の若い一部門なのである。

我々和算研究会に、和算に興味を持っておられる方、またこれから研究してみようと思われる方々が、多数参加されるよう希望してやみません。」先生の希望が実り、多くの方々が和算に触れ、今度、和算が日本独自の文化として大輪の花を咲かせることを信じて止みません。

岩楯先生のご冥福をお祈り申し上げます。レポートを締めたいと思います。

合掌

頑張っている 六葉会会員の皆さん

去年の秋に六葉会会員のお店が、それも2店も、ミシュランの星をいただくという嬉しいニュースがありました。

六葉会会員の皆さんが社会で頑張っておられるんだなあと励まされる思いでした。

今回の六葉会会報ではミシュランには及ばないけれど、みんなで心から応援したい

そんな頑張っている六葉会会員の方々を紹介したいと思います。

江川茂昭さん (34回生)

関東六浦に入るなんて夢にも思ってい
ませんでした。自分はずきり小学校の
仲間と一緒に地元の中学校に行くもの
だと思っていました。父(7回生)が決め
たのだと思います。中学に入ってからも
礼拝など初



めての体験
でしたしカ
ルチャーショ
ックもあり
ました。ク
ラブ活動も
山あり谷あ

りであり熱心にやらない時期もあり
ました。

でもこの頃、関東六浦に行つて良かった
なあとつくづく思うことが多いです。一番
はそれは何より生涯の友人を得たこと
だと思えます。これに尽きますね。クラ
ブ活動の先輩や後輩、そして何でも言い
合える同級生がいるということは何もの
にも替えがたいのだと感じています。

江川食堂 横須賀市鴨居3-16-12
電話 0461-8411-0733

定休日 毎週火曜&第3水曜日

道路を挟んですぐに海岸と言うお店の
ロケーションも素晴らしいです。ご飯類と
ラーメンのセットメニューもいけてます。こ
のお店は何より店主の手柄が良いです。

この人が作ったものが美味しくないとわ
けが無いと感じました。

山田(石井)衛さん(33回生) 蒲谷和茂さん(33回生)

33回生の山田(石井)衛さんと蒲谷和
茂さんをご紹介します。この二人は高校
時代の野球部OB。かつて1982年、
関東六浦が高校野球神奈川県大会ベス
トフォー進出したときのあのピッチャー(蒲
谷さん)とキャッチャー(石井さん)です。
高校卒業後、別々な社会人野球の世界
で活躍していましたが、怪我や家業を継
ぐなど、全く違う世界を歩むことにな
りました。しかし、ある事業の立ち上げ
に参画したことがきっかけとなり、かつて

のバッテリーを再結成してその絆を仕事に生かしています。

横須賀・長沢(京急長沢駅前)の介護付有料老人ホーム『プラージュ・シエル湘南長沢』(<http://www.plage-ciel.co.jp/>)の経営陣とマネジメントのトップという、まさにピッチャーとキャッチャーの二人三脚で経営と介護の現場の中心的役割をこなす多忙な日々を送っています。

少し『プラージュ・シエル湘南長沢』を紹介いたします。山田さんの母の老人ホームを作りたいという夢、横須賀市の施設開設の抽選、資金の手当などたくさんさんの困難を乗り越えて、2010年5月に開設しました。長沢の広大な海と緑の山々に挟まれた豊かな自然を生かして放し飼いの烏骨鶏、野菜、くだものなど地域の特産物を入居者に提供し、生活環境に



も配慮したサービスがウリの老人ホームです。ここでは利用者の生活全体の介助を行っています。人と人との良い繋がりを保つことが最良

の成果です。石井さんと蒲谷さんの本来の役割(肩書き)は取締役と統括マネージャーではありますが、二人の息のあったプレイによって施設全体がチームとなっていると一言でも過言ではありません。同時に、彼らの最大の役割はここに係わる全ての職員と入居者とが居心地がよい関係を保ちながら仕事が出来るようにしていくことでもあります。

仕事上のポジションは守りつつも、現場の要望を経営層に伝え、率直な現場の意見を聞くといったサインのやり取りはまさにかつてのピッチャーとキャッチャーでなければ出来ないでしょう。

開設してようやく1年が過ぎようとしています。これからの更なる二人の発展が期待されます。

陳 寛明さん(47回生)

3人姉弟関東学院の卒業生です。長男寛明氏が経営している横須賀の上海亭にお邪魔してお話を聞きました。

横須賀市安浦に本店、若松町に支店があります。40年以上前から地元で中華料理のお店として根付いている老舗です。こだわりのスープを受け継ぎ、自家製

の麺や皮から作る餃子、味噌も自慢でメニューも110種類もあります。自家製水餃子も絶品です。ホームページ(www.shanghai-tei.com)でもたくさん紹介されています。



関東学院の卒業生もよく来られるそう。野球部の先輩他関東学院OBや地元のちよとした有名人も立ち寄ることもあるそうです。さすが地元の強味ですね。今後は少し古くなった店舗の立替えなども考えなければと気合充分の陳寛明さんでした。

自慢の水餃子をクール便で!通常30個入り2,900円(送料・税込み)を、この会報を、覧になった関東学院卒業生・関係者限定でプラス5個サービスしていただけるそうです(平成23年6月末まで)。この機会に、賞味あれ。詳しくはホームページで。

上海亭 横須賀市安浦町2-1-3
電話 0468-222-0205
定休日 毎週火曜日
午前11時~午後9時半営業(LO9時)

ユニバーサルデザイントイレマップ

Check A Toilet

横浜みなとみらい近辺で昨年10月9日、「Phoneを使った社会貢献イベント」にめぐせ「トイレ登録王」関学生対抗「トイレチェックラリー」が開催された。

同イベントは、高齢者や障がい者のトイレ問題に関する啓蒙、多機能トイレマップをつくるインターネットプロジェクト「Check A Toilet」を幅広く知ってもらうことを目的とした企画。インターネットサイト「Check A Toilet ユニバーサルデザイントイレマップ」を運営す

るNPO法人Check（東京都世田谷区）と関東学院大学が実施し、関東学院大学の学生約80人、Check関係者など100人以上が参加した。このNPO法人Checkの代表理事が金子健二氏だ。関東学院六浦中学・高等学校から関東学院大学へ進学し彼にとって関東学院は大きな影響力を持つ。昨年のこのイベントをきっかけに既に世界規模で話題になりこれからの活躍がとても興味深い。そんな金子氏取材してみた。

六浦中学・高校時代はしっかり勉強しましたと金子氏。中でも地理が好きでしたと語る。小貫先生とは卒業後も親しくシリアルバイトや就職にも大きな影響があったとのこと。卒業後旅行代理店に就職し、ツアーの添乗員や手配をする中で、車いすを使用されるお客様などがある場合、事前に、対応できるトイレがどこにあるか、多機能トイレの情報は果たして有効なものかなど確認するだけでも苦労が少なくなかった。そんなデータベースを作ることこそ自



金子健二氏（46回生）

分の使命だと考え、旅行会社からシステム会社へ転職した。システムに関しては元々詳しいわけでもなかったためトイレマップのサイトを立ち上げるためには相当な努力も必要で、猛勉強をはじめた。更に旅行会社にしてもそうだったが、システム会社にとってもこのマップの対象となるユーザーの絶対数が把握できないため、ビジネススペースではなかなか受け入れられなかったことも彼の大きな問題となっていた。しかし金子氏の努力が報われる時代になってきたこともまた事実だった。SNSやGoogleマップの登場である。トイレマップを作っていくうえで最大の課題が地図であり、情報を二元化する上ではこのSNSはまさに彼のイメージしていた「Check A Toilet」そのものであったわけだ。

いよいよ本格的に活動を始めた金子氏は夜間の仕事に再度転職し、トイレマップを作る上での関連団体や企業をしらみつぶしに当たり情報を集めた。サイトを作るにあたってお金も必要だったため、夜間の仕事は有効だった。何とか貯めた

資金を投入し、サイトのオープンにこぎ着け、いよいよスタート。地道な努力でボランティア団体として活動を続け、2008年1月にはNPO法人として認可を受けた。その辺りからはインターネットの強みで、トイレの登録数に勢いが付いて行った。2011年1月時点で登録されているトイレは約33,000ヶ所。このサイトはGPS機能により、現在地付近のトイレを簡単検索でき、設置場所や扉の種類、スペースの広さ（介助者が何人入れるか等）、便座のアプローチ、トイレ内設備（非常呼び出しボタン、ベビーシート等）、更にトイレ外設備（点字ブロック・授乳室等）なども絞り込んで検索できる。今後はユーザーによる多機能トイレ情報の登録・更新ができるプラットフォームを構築し、情報の質・量の充実を図る予定だ。現在その情報は同サイトのほか、「Googleマップ」や「ナビタイム」といった他社の地図サイトにも利用されている。

金子健二氏の考えでは多機能トイレだけでも日本中に10万件はあると考え

る。現時点ではまだまだ完成は程遠く、運営資金も少ないため未だに一人で駆け回っているのが現状と金子氏は言う。先に上げた昨年のトイレチェックラリーも数多いイベントのほんのひとつに過ぎない。大手企業や団体ともコラボレーションが始まり、インターネット上では海外の反響も多く、将来の規模は計り知れないだろう。

最後に彼はこう言っている。10万ヶ所登録を目指して六葉会の皆様のご協力をお願いいたします。今後も、多くの方に「このサービスがあつてよかった、助かった」と実感していただけのサービスを目指し、誰もが楽しく自由に好きなところに行けるようになってほしい。旅行会社時代からの優しい、まさに人になれ奉仕せよの精神だ。

<http://www.checktoilet.com>



親睦ゴルフ大会開催される!!

第4回 関東学院六浦中学校・高等学校卒業生親睦ゴルフ大会 於:キングフィールズゴルフクラブ

関東学院六浦中学・高校 親睦ゴルフ大会に参加して

(2010年10月21日開催)

萩原めぐみ 26回生

ゴルフを始めて13年目になります。友人をはじめたくさんの人とゴルフを楽しむようになって新しい仲間も増えました。中でも六浦中学・高校の同級生とのゴルフはとても楽しく今では生きがいのひとつになっています。数年前三春台OBとの親睦ゴルフが開催されることを聞き参加しました。それ以来この六浦OBの親睦ゴルフも継続して参加しています。大きなコンペで緊張しますが、古い知り合いに会えたり、たまたまラッキーなだけですが女子の優勝やベストスコアをいただきました(それがかなりのプレッシャーに...)。同窓会などで同級生に会った時には、このゴルフ大会に誘いますが、まだまだ現役で働いている人はかりで平日のゴルフには出て来れない様で残念です。世代を超えて同窓生が集まるゴルフは、とても楽しく嬉しいことだと思います。歳をとってから(もういい歳ですが...)続けられるように元気になりたいと思います。



次回開催の **第5回** 関東学院六浦中学校・高等学校
卒業生親睦ゴルフ大会

平成23年11月10日(木)開催!

詳しくは 幹事 武田正雄まで。

第6回 関東学院三春台校・六浦校 卒業生親睦ゴルフ大会のご案内



第5回大会 2010.6.3

会費 20,000円
お一人様でも参加できます。
(パーティ代/昼食代)
日程 2011年6月9日(木)
会場 キングフィールズゴルフクラブ

●連絡先(武田彦)
▼電話 045(321)5345
▼携帯 090(3515)13995
▼ファクス 045(324)0242

■振込先
横浜信用金庫 本店
普通預金 713124
名義人 関東学院三春台・六浦親睦ゴルフ
幹事 武田 正雄
皆様のご参加をお待ちしております。
※お振込みは事前にお願いたします。
賞品のご提供もよろしくお願いたします。

第59回生の六葉会幹事の皆さんをご紹介します。

1組	梶田 桃子	根本 怜名
2組	江成 美純	李 大葵
3組	杉山 玲奈	増田田美樹
4組	石川 将樹	西木 大輔
5組	理奈	木村 瑠花

クラス会・学年会などを開くとき、六葉会には役に立ちます！
 学校担任)に連絡下さい。 045178112525

- 1・住所録を留意します。
- 2・通信費の補助金を差し上げます。

六葉会会報デジタル化のお知らせ

現在、六葉会では世界中どこにいてもネットワークさえ接続できれば会報を読むことが出来るように、会報のデジタル化に取り組んでおります。すでに六葉会ホームページから過去に発行された14年分の会報をご覧になることが出来ます。

このデジタル化が推進されると以下のような利点が生れます。

- 1 **バックナンバーが簡単に読める**
 六葉会ホームページの「トップページ」→「六葉会からのお知らせ」→「会報」で1997年以降の会報をすべて読むことが出来ます。
- 2 **予算が削減できる**
 比較的若い方々には六葉会ホームページから会報を読んでもいただくことにより発行部数を減らすことができ印刷費用が削減されます。
- 3 **環境に優しい**
 紙の消費を減らすことにより資源保護にもつながります。

もちろん会報の印刷は継続していきます。ご希望の方には従来と同様に紙媒体による会報をお届けいたしますが、六葉会で進めている会報のデジタル化にご理解をいただき協力下さいますようお願いいたします。

六浦祭に行こう!!

2011年11月2日(水)～3日(木・祝)
 3日(木・祝)にはホームカミングデーも開かれます♪

母校で例年の通り、生徒会主催の六浦祭が開催されます。中学生の展示や各クラブの出し物など沢山の催し物が準備されています。恒例となりました生徒たちの模擬店も賑やかに出店されます。

今年も3日(木・祝)に第7回ホームカミングデーが開催されます。懐かしい先生方も大勢ご招待しておりますので、是非お出かけ下さい。

式典：11月3日(祝) 午前11時頃より
 茶話会：正午頃より

■日程や場所に変更する可能性もあります。ホームページでご確認いただくか、ご来校前に学校にお問い合わせ下さい。(045-781-2525)

六浦祭を楽しみながらホームカミングデーにご参加いただき、母校での楽しいひと時をお過ごし下さい。いつものように「六葉会の部屋」も設置します。卒業アルバムを見ながら一息ついていってください。皆様のお越しをお待ちしております。



■ 関東学院六葉会 〒236-8504 横浜市金沢区六浦東1-50-1 TEL.045-781-2525

印刷:株式会社エイコープリント 2011.4

「みんなでUFO、見たよね♪」

あれは夢か幻だったのだろうか…。



当時、関東六浦の生徒だった僕は
クラスメイトと天城山荘の上空で光るUFOをキャッチした。
眩しく、鮮やかな空のブルーに、光輝く揺れる銀色の物体。
それはまさしくUFO。

踊り続けているように見えるその物体は、まるで僕たちにコンタクトしてきたように思えた。
仲間の歓声がこだまする。

やがてUFOは空から逃げ出すように山々の裏に消えた。
冷め切らぬ興奮と感動。そしてなぜか僕の心に大きな幸福感が
広がっていくのを感じた。

楽しかった学園生活。共に学び遊んだ仲間たち。

今でも関東六浦で学んだ友人たちとつき合いは続いている。

かけがえのない素晴らしい仲間。

今でも、あのUFO事件を仲間と語るときがある。

「あれってやっぱりUFOだよな。」「それって俺たちは宇宙人に会ったってことか。」

「間違いないよ、あれはUFOだ。しかし神秘的な光景だったな。」

あの時の鮮明な映像が蘇り、胸に熱い思いが込み上げてくる…

時はタイムトリップし、僕らはあの時のまだ幼い顔つきを
残した少年に戻っていた。



天城山荘チャペル

親子の絆。

あなたのお子様

が関東学院六浦の校門をくぐることに。

それは最大級のお子様への

贈り物だと思いませんか。

心躍る時間、未来へ続く道

関東学院六浦中学校・高等学校

〒236-8504 横浜市金沢区六浦東1-50-1 TEL.045-781-2525